

Tax&Law

今回の経営助言は経営分析についてです。

経営分析とは、企業の経営成績や財務状態について、「貸借対照表」や「損益計算書」に表示された情報に基づいて諸要因を分析し、財務構造の健全性などを明らかにする技法を言います。

I、収益性分析

「収益性」とは、資本をいくら投入していくら利益を獲得したか、の割合をいいます。そして「収益性分析」とは、企業が利益を生み出す力を評価するものです。

$$\textcircled{1} \text{総資本営業利益率 (\%)} = \frac{\text{営業利益}}{\text{総資本}} \times 100$$

総資本営業利益率は、他人資本を含めた総資本の運用効率を、企業の営業活動によって得た利益に限定して判断するものです。

$$\textcircled{2} \text{総資本経常利益率 (\%)} = \frac{\text{経常利益}}{\text{総資本}} \times 100$$

総資本経常利益率は、総資本の運用効率を臨時異常な期間外損益を除外した経営利益で判断するもので、総合的な収益力の指標として最適なものとと言えます。

③自己資本利益率

$$\text{自己資本利益率 (税引前) (\%)} = \frac{\text{税引前当期純利益}}{\text{自己資本}} \times 100$$

自己資本利益率は、調達資本を自己資本に限定し、期間外損益を含めた税引前純利益をこれと対比して、企業所有者の立場から収益力を判断するものです。

II、生産性分析

「生産性」とは事業にどれくらいの人または物を投入して、それによっていくら稼いだのかの割合（稼ぎ高／人または物）をいいます。すなわち、生産が効率的に行われているのかどうかを見るのが、「生産性分析」です。

$$\textcircled{1} \text{1人当り売上高 (年)} = \frac{\text{純売上高}}{\text{平均従業員数}}$$

1人当り売上高は、人的生産性を見る上で重要な指標であり、従業員1人当りの年間の売上高を示しています。

$$\textcircled{2} \text{ 1人当り加工高（粗利益）（年）} = \frac{\text{加工高（粗利益）}}{\text{平均従業員数}}$$

1人当り加工高（粗利益）は、生産性分析の中で最も重要な指標であり、従業員1人当りの加工高を示しています。労働集約的な企業であれば、この比率は端的に労働による生産性を表すこととなります。

$$\textcircled{3} \text{ 加工高設備生産性（\%）} = \frac{\text{加工高（粗利高）}}{\text{有形固定資産}} \times 100$$

加工高設備生産性は、企業の有する有形固定資産に対する加工高の割合を示すものであり、物的生産設備に投下された資本と、創出された付加価値とを対比するもので、資本集約的な企業であればあるほど、この比率は重要な意味を持っています。

参照：TKC出版「実践！経営助言」